

## 2021 J3 ■順位表■開幕前

<秋田、相模原がJ2へ昇格>  
(J2からの降格なし)

長野  
鹿児島  
鳥取  
岐阜  
今治  
熊本  
富山  
藤枝  
岩手  
沼津  
福島  
八戸  
讃岐  
YS横浜  
宮崎 (新加盟)

※今季からU-23チームの参戦なし。

## 次回HomeGame

第3節 vs.カマタマーレ讃岐  
3/28 (日) 14:00  
@岐阜メモリアルセンター  
長良川競技場

**大酒場 ホームラン**

名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)  
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より  
「おかえりなさい」が似合う  
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は  
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。  
休:月曜日

## today's guest : ヴァンラーレ八戸

2020 J3 8勝9分17敗 勝ち点33:15位

## 直近の対決と結果

2020/12/09  
J3 - 32節@長良川

**岐阜 1-0 八戸**

川西翔太 scored.

## ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	ヴァンラーレ八戸
2020/12/20 J3 - 34節@パナスタ G阪23 2-1 岐阜	2019/12/20 J3 - 34節@ヤンマー C阪23 1-4 八戸
2020/12/13 J3 - 33節@長野U 長野 0-0 岐阜	2020/12/13 J3 - 33節@藤枝サ 藤枝 3-0 八戸
2020/12/09 J3 - 32節@長良川 岐阜 1-0 八戸	2020/12/09 J3 - 32節@長良川 岐阜 1-0 八戸

●今年もまた、僕らの街にJリーグが帰ってくる。そして我らがFC岐阜は、2021シーズンもまた、J3を舞台にしてリーグ戦を戦う。

J3初年度の昨季、FC岐阜は『J3優勝・J2復帰』を目標に掲げて戦ったが、最終順位は6位。2年目の今季は、甲府や富山などで指揮を執り、昨季までFC東京コーチの安間貴義氏が新監督に就任し、悲願達成に向けて準備を進めてきた。

いまだコロナ禍にある状況で開幕するJ3だが、昨季よりもJ2昇格に関して可能性の高い状況が揃っている。まず、昨季のJリーグは特例で降格チームを出さなかったため、J2昇格のライバルとなるチームが2つ減っている。そして、昨シーズンでU-23チームのJ3参加が終了したので2つ減。J初参入の宮崎を加えてトータル3つ減の全15チーム・全30節(各チームの試合数は28)で今季のJ3リーグは開催される。このため、過密日程が解消され、また、東京五輪が開催される予定の7月中旬～8月下旬はリーグ中断期間となっている。この期間は、真夏の岐阜・猛暑下での試合を避けることができる上、避暑地でのチーム強化に充てることも可能だ。

一方で、今季は試合数が少ないために1試合の重みが昨季よりも増しており、わずかな勝ち点の取りこぼしが大きな痛手となることも明らかだ。また、今季は代替日を確保できなかった場合の「みなし開催」制度が導入されたのも大きな変化だ。2月下旬に開幕したJ1では、G大阪がコロナ感染で既に3試合の開催中止という事態を迎えている。我々も引き続き、新型コロナ感染拡大防止策をとりながらシーズンを過ごさなくてはならない。そして、我々と同様にJ2昇格を目指す他のチームも、『今年こそはチャンス』と意気込んでいるのも間違いない。しかも、昨季の我々は6位であり、長野・鹿児島・鳥取に次ぐ“4番目の挑戦者”だという意識を忘れてはならない。したがって、目の前の1試合に全力を傾け、勝ち続けることで結果を出してゆくしかない。そのためには、まずは開幕戦を勝利で飾ることが、何よりも重要だ。

さて、今季の開幕戦でホームに迎える対戦相手は、ヴァンラーレ八戸だ。J3参入2年目の昨季は15位に終わり、一昨年に監督、昨季はヘッドコーチだった葛野昌宏氏が今季は監督に復帰。戦力としては、レギュラー陣の多くは残ったものの、新加入選手のほとんどが大卒選手という状況だ。したがって、チームとしての継続性・積み上げはあるものの、スタメンとベンチでは、かなり差があると見るのが正しいだろう。一方の岐阜は、これが初の実戦。両チームの戦力差は大きく岐阜が有利とも思えるが、初戦の難しさを考えると、試合の入り方が非常に重要となると予想される。お互いの出方を窺う、緊張感のある試合展開になるだろう。

昨季に初対戦した八戸だが、岐阜が2勝・4得点無失点と、“ダブル”を達成している。昨年9/13(日)第15節アウェイ戦では、前半に#2橋本和のトリッキーなゴールや#15町田ブライトのJ初ゴールで2得点、後半に追加点を挙げて3-0で勝利。ホーム最終戦となった12/9(水)第32節では、#8中島賢星のCKを#10川西翔太が左足で叩き込んで先制。その後八戸の猛攻を浴びるものの、この1点を守り切って勝利した。今日の試合でも勝利して、チーム対戦3連勝を達成しなくてはならない。

八戸で最も注意すべき選手は、昨季10ゴールの#9上形洋介だろう。2年連続二桁ゴールを挙げた八戸の得点源を封じることが、岐阜の勝利には必要不可欠だ。一方の岐阜では、青森山田で高校時代を過ごし、今季は完全移籍で“岐阜の王様”になるであろう、#10川西翔太の今季初ゴールに期待したい。

昨季同様、コロナ禍での感染防止対策が徹底される中での開幕だが、僕たちサポーターは、その中でも可能な範囲で選手たちの後押しをしよう。タオマフやゲーフラなどの掲出(振るのは禁止)でスタジアムを緑に染め、(声は出さずに)拍手や鳴り物の音をスタジアムに響かせよう。そして、試合終了後には観戦ルールと社会的距離を守りながら、勝利の喜びを選手たちと分かち合おう。さあ、僕らが強い決意で臨む、待ちに待ったJ3リーグ・2021シーズンの開幕だ。(ささたく)

投稿募集!! [gidaidohri@gmail.com](mailto:gidaidohri@gmail.com)

# いよいよ開幕です！

●昨季は『J3昇格&1年でのJ2復帰』を目標に掲げていたFC岐阜。しかし、J3では圧倒的とも評されていた選手層を誇りながら、シーズン序盤から躓きました。やはり、下位カテゴリーになるほど選手の平均的な能力は低くなり、これを補う監督・コーチ陣の戦術構築が重要になってくると痛感しました。そして、たとえ過去には素晴らしい成績を残した優れた指導者であっても、年々変化してゆくサッカー戦術をアップデートさせなければ、現在のJリーグでは通用しないということも。確立されていない戦術と、慣れないカテゴリーかつ過密日程での試合、そして落としてはいけない大事な試合で何度も勝ち点を取りこぼした結果、FC岐阜の最終順位は6位。勝負事にたられれば禁物ですが、それでも『あの試合で…』との思いが尽きません(苦笑)。そして、1年でのJ2復帰が達成できなかった以上、またコロナ禍でスポンサーの皆さんの経営も厳しい状況では、今季のクラブ経営は壊滅的な状況になることを覚悟していましたが、(僕の予想に比べれば)チーム経営は苦しいけれど壊滅的にはなっていないとのことで、正直驚いています。本当にありがたいことです。風の噂では、J3でトップ・J2下位よりも多い観客入場者数も、スポンサー継続の後押しのひとつになったとか。今季こそは、そういう期待を裏切らないために、絶対にJ2復帰を達成しなくてはなりません。そして、そのために今季のFC岐阜が選んだ指揮官は、安間貴義。僕の中ではやはり“富山の監督”であり、『育成に定評がある』一方で、『若き中島翔哉を起用し続けた結果、富山を降格させた監督』という印象であるのは事実です。ただし、それも6年前の話。その後ずっとFC東京で指導者経験を積んでいるのですから、刮目して見なくてはと期待しています。また、僕は安間監督就任のリリースがあった直後から『今後の岐阜の強化を考えたら、GMの方が適任なのでは?』って感じてたのですが、FC東京ユース出身の#25 生地慶充など有望大卒選手や#14 本田拓也などの中堅・ベテラン選手の加入、そして昨季の主力選手の多くが残留してくれた今季オフの補強を見ると、『これはイケるかも…!』と。まあシーズン開幕前には毎年思っていたりするんですが(苦笑)。特に、#4 甲斐健太郎の“漢気”更新や#10 川西翔太の完全移籍リリースに浮かれて祝杯を挙げた岐阜サポは、僕だけではないはず(笑)。やっぱり実際に安間さんがGM的な仕事もしてるのだなあ…って思ったら、小松裕志氏のGM就任の報に、えーっと?(苦笑)。ただ、小松GMは、どちらかと言えば“サッカーにも造詣のある経営者”的な経歴なので、そういう整理で良いのなとも思っています。また、2022年からはJ2・J3でもホームグロウン制度が実施されるため、ユースの強化は必須。それを見据えてか、今季から山尾光則ヘッドオブコーチングが就任しました。すぐに結果が出るものではありませんが、ユースの動向にも注目したいと思います。

自他共に認めるJ屈指のスタグルを誇る屋台村や、盛り沢山のスタジアムイベント、豊富な情報発信(配信)など、毎年少しずつ、確実にレベルアップしていることを実感できるクラブ運営。『あとはチーム(の結果)だけ』と言われるように…というか、たぶん僕が一番そうやって言っています(苦笑)。今季こそはチームが結果を出さなくてはならない。今季のFC岐阜がそういう覚悟をもって、J3リーグを戦うことを心から望みます。(ささたく)

●あれはいつのことだったろうか。記憶も定かではないくらい昔の話で恐縮だが、サッカー専門誌に載っていた、とあるクラブの監督だった方の言葉が印象的で、折に触れて思い出すことがある。それは開幕特集号に掲載された全クラブの監督へのアンケートだったと思うが、その中で前述の監督だった方がこう回答していた。「4バックが好きだから。」と。もはや、質問が何だったかも覚えていなくて申し訳ないが、

たぶん、戦術とかシステムとかを問われての回答だったような気がする。とにかく、「好きだから。」という単純な答えが、なんとなく腑に落ちた。なんとすれば、自分も4バックが好きだったから(笑)。もちろん、システムが試合を決めるわけじゃない(影響することはあるにせよ、だ)。4だろうが、3だろうが、5だろうが、選手の能力を活かしたものでなくては意味がない。あるいは、組織としての運動性や選手個人の気持ちの内容や結果を左右するものだとわかってはいる。それでも、この回答を見た時、今はリーグの要職に就いているその人に、ものすごく親近感を覚えてたことは今も覚えていない。

いきなり、何の話だ?と戸惑われておられるだろうが、『安間さん監督就任』の報を聞いた時に思い出したわけですよ。3バックのヒトだよな?安間さんって、と。特に理由もないけど4バックが好きな自分が、こともあろうにヒイキのクラブが3バックという別の宗教に転ぼうとしている(違)。はたして、今まで通りに応援できるのだろうか?なんて、しょうもないことを考えながら、一喜一憂してここまで来た。当然、「システムなんか関係ねえ!」という気持ちになっている(笑)。そう思っていたら、直前になって、とんでもない情報が飛び込んできたけど、どうなってんだ?能力が凶抜けてるのはわかっているけど、スタイルやポジションが被ってるんじゃないか?とか、その他諸々が気になっている。飛ばし記事ならいいが、複数のスポーツ紙に取り上げられてるとなると、ガセでもないような気もするし。まったく、ウチはネタには事欠かない(苦笑)。

とにかく、願っているのは試合の後に選手、スタッフ、そして、スタジアム全体が笑顔で包まれていること。シーズンが終わった時に全員で喜びを分かち合えること。そして、昨季の開幕戦号にも書いたけど“今季が無事に終了すること”。このクラブに関わる誰もが幸せなシーズンになりますように。今季もよろしくお願いします!(ぐん、)

●新型コロナウイルス禍で厳しい経営になった企業も多いだろう。そして、株式会社岐阜フットボールクラブもその中の一つであることは容易に想像できるのだけど、それでもこれだけの陣容を整えてくれた尽力には頭が下がります。個人的には、(SNSで晒したけれど)ぼくが昨年秋に買って実際に使用した『川西→岐阜』の乗車券が彼の完全移籍に多少なりとも役に立ったかな?かな?なんて、独りで幸せな気分になっています(笑)。

おそらく、コロナ禍はそう簡単には終わらない。クラブも、選手も、そしてぼくも、誠に不本意ながらしばらくは『ウィズ・コロナ』な生き方を強いられるだろう。試されるのは適応力だ。東日本大震災の1年後に女川でサッカーの試合を観た時にも思ったのだが、「人間は、しぶとい」。しぶとく行こう。コロナウイルスが面倒くさくなくなって、普通のウイルスに格下げになるまで。(吉田铸造)

## 柏木選手の移籍加入について

●来たからには我らの仲間。プレーで示してくれるのを期待しています!(ヤックル)

●これまでも元・日本代表は何人が移籍加入しているけれど、こんなにも「代表選出から日が過ぎていない」選手が来ることはなかったのではないかと、思う。もっとも、そういう経歴の選手がJ1のビッグクラブからJ3の岐阜に移籍して来るのには当然だけ理由があって。だからか、移籍交渉中との報道がなされた時に、ぼくの周囲からポジティブな見解は1つとして上がってこなかった。

でも、実際のところはピッチの内外を見ないことにはわからない。だから、本人は「自分を受け入れてくれたのがここだ」という意識を持ってプレーしてほしい。生活してほしい。評価はそこから。(吉田铸造)